

9 リスクの見積り手法と評価基準

産業廃棄物処理業におけるリスクの見積り手法と評価基準については、次のような分類によって使い分けてください。

特に、Ⅱ～Ⅳの労働衛生編に関する見積り手法と評価基準は、作業環境の中で種々の有害性（ここでは、化学物質・粉じん、騒音、暑熱）に慢性的にばく露されることによって発生する労働災害（健康障害）についてリスクの見積りを実施するときに使用するものです。

ただし、化学物質であっても接触したことによって瞬間的に労働災害になる（薬傷、酸欠等）場合には、Ⅰの安全編でリスクの見積りを実施してください。

Ⅰ 安全編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全作業 	→ 85 頁へ
Ⅱ 労働衛生 (化学物質・粉じん) 編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選別作業 ・ 破碎作業 ・ 焼却作業 ・ 回収作業 他 	→ 88 頁へ
Ⅲ 労働衛生 (騒 音) 編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重機作業 ・ 破碎作業 <li style="text-align: right;">他 	→ 93 頁へ
Ⅳ 労働衛生 (暑 熱) 編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼却作業 ・ 重機作業 <li style="text-align: right;">他 	→ 95 頁へ

I 安全編

1 リスクの見積り手法

- ①リスクが発生する頻度、②リスクが発生したときに負傷又は疾病になる可能性、③負傷又は疾病の重篤度の3つの要素による『加算方式』でリスクを見積ります。

$$\text{リスクの点数（リスクポイント）} = \text{頻度} + \text{可能性} + \text{重篤度}$$

頻度： 作業中に危険性又は有害性と労働者が接触し、リスクが発生する頻度（接している時間）を判断する。

可能性： リスクが発生したときに労働災害を避けることができるのかを、安全方策の状況や作業者の行動等から判断する。

重篤度： リスクが発生し、労働災害になったときに想定される最も大きな負傷又は疾病を判断する。

2 評価基準

- ① リスクが発生する頻度の評価基準

表3-4 リスクが発生する頻度の区分と評価の点数

頻度	点数	内容の目安
頻繁	4	1日に1回程度
時々	2	週に1回程度
ほとんどない	1	半年に1回程度

留意事項

「頻度」の解釈を誤らないようにしましょう。ここでいう「頻度」とは、作業中に危険性又は有害性と作業者が接触し、リスクが発生する頻度のことで、作業回数ではありません。

（例）

高濃度の廃酸の運搬作業を考えた場合、リスクが発生する頻度は、高濃度の廃酸をこぼす頻度（こぼすことにより廃酸が身体にかかりそうになる頻度）です。運搬容器を廃酸がこぼれにくいものに変更すれば「リスクが発生する頻度」は低下します。ところが、運搬作業を「リスクが発生する頻度」と考えてしまうと作業回数が「リスクが発生する頻度」となり、容器を変更しても運搬作業は毎日実施されることから「リスクが発生する頻度」は低下しないこととなります。これではリスク低減措置の効果が表れなくなり、不適切となります。

② リスクが発生したときに負傷又は疾病になる可能性の評価基準

表3-5 リスクが発生したときに負傷又は疾病になる可能性の区分と評価の点数

可能性	点数	内容の目安	
		危険検知の可能性	危険回避の可能性
確実である	6	事故が発生するまで危険を検知する手段がない	危険に気がついた時点では、回避できない
可能性が高い	4	十分な注意を払っていないければ危険がわからない	専門的な訓練を受けていないければ回避の可能性が低い
可能性がある	2	危険性又は有害性に注目していれば危険が把握できる	回避手段を知っていれば十分に危険が回避できる
ほとんどない	1	容易に危険が検知できる	危険に気がつけば、けがをせずに危険が回避できる

③ 負傷又は疾病の重篤度（災害の程度）の評価基準

表3-6 負傷又は疾病の重篤度の区分と評価の点数

重篤度	点数	災害の程度・内容の目安
致命傷	10	死亡や永久的労働不能につながるけが 障害が残るけが
重傷	6	休業災害（完治可能なけが）
軽傷	3	不休災害（医師による措置が必要なけが）
軽微	1	手当後直ちに元の作業に戻れる微小なけが

3 リスクの優先度の設定

表3-7 リスクの優先度

リスク	点数 (リスク・イント)	優先度	災害発生の可能性	取扱基準
IV	12~20	直ちに解決すべき問題がある	重篤災害の可能性大	直ちに中止または改善する
III	9~11	重大な問題がある	休業災害の可能性大	早急な改善が必要
II	6~8	多少問題がある	不休災害	改善が必要
I	5以下	必要に応じて低減措置を実施すべきリスク	軽微な災害	残っているリスクに応じて教育や人材配置をする

[点数が高いほど優先度が大]